

#### 堤先生ご推薦

(1) 杉田敦『政治的思考』岩波新書、2013年、720円＋税、ISBN 9784004314028

(2) 学問領域：政治学

(3) キーワード：決定、代表、討議、自由、権力

(4) 難易度：1

(5) コメント：自由、権力、決定といった政治学における基本的な概念について、平易な言葉

で論じた一冊。私たち自身が、政治の世界の一員として政治にどう向き合ったらよいかを考え

る上で、多くのヒントを与えてくれる。

(1) 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年、740円＋税、ISBN 9784061455535

(2) 学問領域：政治学、社会学

(3) キーワード：方法論、原因と結果、科学的説明

(4) 難易度：2

(5) コメント：何が原因である結果が生じるのか？という問いに、「科学的に」取り組むための

方法について論じた書物。筆者がアメリカ留学中に経験した出来事も交えながら、分かりやすく

書かれており、予備的な知識がなくても十分に読み進められるだろう。論文やレポートを書く際

の指針としてもらいたい一冊。

#### 金先生ご推薦

(1) 稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門－孤立から絆へ』中公新書、2014年、760円＋税、ISBN:9784121021380

(2) 学問領域：政治学

(3) キーワード：社会関係資本、信頼、互酬性、ネットワーク

(4) 難易度：1

(5) コメント：ローバト・D・パットナムの『哲学する民主主義』(1993、*Making Democracy Work*)が出版されてから、社会関係資本は多岐にわたって愛用されている概念の一つである。本書は社会関係資本について分かりやすく説明するとともに、経済的格差との関係を興味深く述べている。関心のある学生にはパットナムの本も薦めたい。

(1) トマ・ピケティ『21世紀の資本』みすず書房2014年、5940円(税込)、ISBN:4622078767

(2) 学問領域：経済学、政治学

(3) キーワード：格差、資本収益率、資本税

(4) 難易度：3

(5) コメント：資本主義において格差と不平等は解決できない問題だろうか。この本質的な課題について膨大なデータを通して分析し、大胆な提案を行った話題の本。資本収益率は常に経済成長率を上回っているため、格差は広がっていく。だから画期的な課税制度を通して不平等を緩和すべきだという主張に注目したい。

#### 井上推薦

(1) 細谷雄一『国際秩序』中公新書、2012年、880円＋税 ISBN-10: 4121021908

(2) 学問領域：国際関係論、

(3) 国際秩序、外交

(4) 難易度：2

(5) コメント：近代ヨーロッパから現代東アジア情勢までを国際秩序という観点から読み解いた一冊。近代以降の世界史の知識があれば学部1年生でも読みやすい。国際関係論の入門書としてお勧めしたい。

(1) 北岡伸一『自民党』中公文庫、2008年、933円＋税 ISBN-10: 4122050367

(2) 学問領域：政治史、日本政治

(3) キーワード：政党システム、55年体制

(4) 難易度：2

(5) 戦後日本政治において長らく政権を独占した政党の軌跡を、派閥構造の変遷を軸にたどった著作。経済政策や外交にも目配りが効いていて、日本政治に関心のある学生には最初の一冊としてお勧めしたい。

#### 佐川先生推薦

(1) 岡本茂樹『反省させると犯罪者になります』新潮新書、2013年、720円＋税、ISBN-10: 4106105209

(2) 学問領域：刑事政策、法学、心理学

(3) キーワード：更生、再犯

(4) 本の難易度：1

(5) コメント：犯罪者にはまず反省をさせなければならない、という態度が、再犯を防止するためにはむしろ逆効果となり得る？本書では、犯罪者に限らず、人々の「反省」そのものが持つ問題性について興味深い指摘がなされているので、分野を問わず、多くの学生にお勧めの一冊。

(1) 阿部謹也『刑事の社会史』中公新書、1978年、絶版、ISBN-10: 412100518

- (2) 学問領域：社会学、歴史、法学
- (3) キーワード：ヨーロッパ中世史、犯罪、刑罰、裁判制度
- (4) 本の難易度：2
- (5) コメント：人々の犯罪や刑罰に対する捉え方が、時代や社会によって異なるものであることを知り、それらが実際の制度に与える影響を考える際に格好の1冊。宗教や歴史（特に中世史）に興味がある学生にもお勧め。

#### 春日川先生推薦

- 1) 澤田昭夫、1983年、『論文のレトリック わかりやすいまとめ方』、講談社、4-06-158604-1、1100円＋税
- (2) 大学入門、修辞学
- (3) キーワード 論文の書き方、レポートの書き方、ノートのとり方、校正の方法、注の付け方
- (4) 難易度 1
- (5) 「よい論文とは、明確な問いを提示しそれに答えるもの」との考えに基づき、論文やレポートといった文章の書き方について具体的なアドバイスを与えてくれる。わかりやすく簡潔な表現で読みやすい。

- (1) 野田進・松井茂記編、2014年、『新 シネマで法学』、有斐閣ブックス、978-4-641-18419-0、2500円＋税
- (2) 法学、政治学
- (3) 裁判、統治機構、基本的人権、契約、死刑制度
- (4) 難易度：2
- (5) 「風と共に去りぬ」、「それでもボクはやってない」など、古今東西の名作と関連づけて法学を紹介する。気軽に読めるが、内容は本格的。映画のあらすじを楽しみながら、法律の知識も得られるお得な一冊。

#### 前原先生推薦

- (1) 浅木慎一『商法探訪—初めて学ぶ人のために—第2版』信山社、2010年、1,800円＋税 ISBN：9784797255669
- (2) 学問領域：法学
- (3) キーワード：民法、商法
- (4) 難易度：1
- (5) コメント：本書は、商法を学ぶ一歩手前の同法入門書として著わされたものである。そのため、商法はもちろん、初学者が躓きがちな民法を学び直す点からもお勧めできる一冊である。

- (1) 青木昌彦＝奥野正寛＝岡崎哲二『市場の役割 国家の役割』東洋経済新報社、1999年、2,500円＋税 ISBN：4492312560
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：国家、経済システム、グローバリゼーション
- (4) 難易度：2
- (5) コメント：青木昌彦やジョゼフ・E・スティグリッツ、カーティス・J・ミルハウプトといった国内外の蒼々たる顔ぶれが執筆者に名を連ねる本書は、経済システムにおける国家の役割・機能を様々な角度から検討している。自ら学び、問う機会を与えてくれる貴重な一冊といえよう。

#### 三野先生推薦

- (1) 兼子仁『変革期の地方自治法』、岩波書店、2012年、9784004313496、800円＋税
- (2) 行政法、地方自治法
- (3) 地方自治、住民協働
- (4) 2
- (5) 地方分権改革等を経て、地域自治改革がどこまで進んだのか、平成の大合併や指定管理者制度がもたらしたものの、長と議会の望ましい関係、自治権確立のための課題などを検討し、地方自治法制が目指すべき方向性を明らかにしている

- (1) 大川真郎『豊島産業廃棄物不法投棄事件』、日本評論社、2001年、4535583056、1800円＋税
- (2) 行政法、地方自治、行政学
- (3) 産業廃棄物、地方自治
- (4) 2
- (5) 香川県の豊島で起きた産業廃棄物不法投棄事件の公害調停に関わった弁護士による事件の経緯、住民の闘い、公害調停の経緯等の記録である。香川大学で学ぶ学生にとって、産業廃棄物不法投棄事件を通して瀬戸内の島が抱える課題を学ぶのに最適の書である、

#### 八並先生推薦

- (1) 阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』（筑摩書房 [ちくまプリマーブックス] 1988年、ちくま文庫 2007年) ISBN: 9784480423729、648円
- (2) 歴史学
- (3) ヨーロッパ、中世
- (4) 1

(5) 学ぶことの意味と厳しさについて考える一冊として味わい深い。温和な語り口で読みやすく、思慮に富んだ一文一文が魅力的。

(1) 黒田日出男『謎解き洛中洛外図』（岩波書店[岩波新書] 2003年）ISBN: 9784004304357、821円

(2) 歴史学

(3) 洛中洛外図屏風、史料

(4) 1

(5) 絵画史料を用いて歴史を読み解いていく研究のプロセスがいきいきと描かれている。美術好きにはたまらない。